

風 か ほ る

たくさんの教科を学ぶ意味

(校長講話から)

皆さんは、小学校の時からたくさんの教科の勉強をしています。なぜ、たくさんの教科の勉強をしているのか考えたことはありますか。

世の中は、国語、数学、美術というふうにはわかれていません。社会にできれば、「教科」という枠組みはなくなります。

例えば、ウクライナやイスラエルで続いている戦争。中学校では「社会科」という教科の枠組みで考えるのが一般的でしょう。社会科のなかでも、教科書は、地理や歴史、公民と分かれています。では、社会科だけ勉強していればこの問題は解決できるのでしょうか。その国の歴史、地理、人々の暮らし、文化、宗教などは理解に加え、戦争ともなると、相手や周りの国の状況、戦争に使われている武器、人々の生活、食糧や生活、けが、ストレスなど科学、医学など、社会という教科以外の、地球規模でいろいろな分野の専門性がないと分析や解決に向けた提案ができません。

社会に出れば、問題の解決のためには、複雑な要素がからみ、いろいろな角度から物事を考えていく必要があるのです。だからといって、地球のこと丸ごと全部をいきなり学ぶことはできないので、特に義務教育段階では、教科ごとに学習内容をまとめています。そして、いろいろな教科を学ぶことを通して、いろいろな見方、考え方を学び、それらを組み合わせて課題に向き合えるようになってもらいたいわけです。

簡単な例を一つ紹介しましょう。

$$(7 \times 7 + 4 \div 2) \div 3 = 17$$

数学の時間にこの「式」を出されたら、皆さん何を考えますか。この式があっているかどうかを見た人が多いと思います。かっこの中を先に計算して、しかも掛け算割り算を先に…と考えるでしょう。17であっています。

では、これを国語の時間に示されたらみなさんどうしますか。

「かっこのな かけるななたす よんわるに かっことじわる さんはじゅうなな」

声に出して読めばわかります。これは実は短歌です。クイズのような内容ですが、数学の時間に出されたら「式」にしか見えませんが、国語の時間には「短歌」になります。いわゆる七五調ですから、リズムを感じるには音楽の力も必要でしょう。

数学だけを勉強していたらこれはいつまでたっても「式」にしか見えません。いろいろな出来事に出会ったとき、別の意味があるかも知れないと、いろいろな角度から見たり考えたりする力が必要です。『式』にしか見えませんから『式』ではないかもしれない』というように広げられるようになってほしいのです。そこで、義務教育の9年間はたくさんの教科を学び、数学的な考え方、国語的な考え方など、いろいろな角度から見たり考えたりする力をつけたいと考えています。

はじめにお話しした通り、皆さんが学校を卒業した後には「教科」という枠組みはありません。私たちはどうしても、自分が見たいところからみたり、苦手なことを遠ざけたりしてしまうことがあります。技能教科の中には、高校で選択しなければ、学ぶことがない教科もあります。

今日は、たくさんの教科に分かれている意味、また、たくさんの教科を学ぶ意味についてお話ししました。皆さん一人一人に、いろいろな教科を学びながら、ものの見方考え方をどんどん広げてほしいと思います。

母子ともに健康です。